

石川県志賀町の砂浜で拾ったサクラガイです。この海岸は、全長 460 メートル余りの「世界一長いベンチ」で知られていますが、美しいサクラガイを拾える浜としても有名です。波打ち際を歩いて探してみると、淡い桜色から桃色、橙色まで、一枚一枚微妙に色合いの異なる薄く繊細な貝殻が見つかります。光を受けると真珠のような光沢を見せ、まさに「桜貝」の名にふさわしい美しさです。

拾った貝殻をよく見ると、3 割ほどに、まるでドリルで加工したようなきれいな丸い孔が開いていました。じつはこれは人が開けたものではなく、肉食性の巻貝であるツメタガイなどタマガイ科の仲間に襲われた痕跡と考えられます。ツメタガイは砂の中の二枚貝を探し出し、大きな足で包み込んで、歯舌などを使って殻を少しずつ削り、円形の孔を開けて中の軟体部を食べます。

実際、この砂浜ではサクラガイに交じってツメタガイの貝殻も落ちていました。美しいサクラガイの殻に残された小さな孔は、かつて海底の砂の中で繰り広げられた「食う・食われる」の記録なのです。しかも、この孔は糸を通すのにちょうどよい大きさで、そのまま首飾りを作れそうです。自然が開けた孔を利用してアクセサリーにできるとは面白いものですが、その丸い孔一つ一つが、ツメタガイの食事の跡だとなると、きれいなサクラガイにも海の生態系の厳しさが刻まれていることがわかります。

(2026 年 8 月上旬／石川県志賀町)

